

酒造適性と酒質が優れる水稲早生酒造好適米‘土佐麗（とさうらら）’の育成

育成の背景

県内産酒米の使用率は約3割にとどまっています。この理由の一つに、県内平坦部栽培用‘風鳴子’は醸造適性は優れるものの、高度精白時の碎米が多く、品質や収量が安定しないことが挙げられます。このことから、2009年に高知県農業技術センターにおいて、「高系酒326（風鳴子/杜氏の華）」(母本)と‘ひとめぼれ’ (父本)を人工交配し、2018年に高度精白可能な酒造適性の優れる多収性品種‘土佐麗’を育成しました。

品種の主特性

‘風鳴子’と比較して、

- ・ 稈長；5cm程度短い。
- ・ 成熟期；ほぼ同じ。
- ・ 耐倒伏性；同じで「中」。
- ・ 収量性；高い。
- ・ 玄米千粒重；1g程度軽い。
- ・ 特性検定；葉いもち抵抗性は、同じで「中」。穂ばらみ期の耐冷性は「極強～強」で強い。
- ・ 品質、玄米タンパク質含有率；同程度で良好。
- ・ 心白；発現程度は高く、心白率は「中」に分類。
- ・ 碎米率；低い。

表 ‘土佐麗’ の特性一覧(高知県農業技術センター)

品種名	土佐麗	(対照)風鳴子
出穂期(月 日)	6月27日	6月27日
成熟期(月 日)	8月 1日	8月 3日
稈長(cm)	69	74
穂長(cm)	19.1	20.2
穂数(本/㎡)	345	327
特性検定	耐倒伏性	中
	葉いもち	中
	紋枯病	中
	耐冷性	極強～強
玄米	収量(kg/10a)	486
	収量比(%)	114
	千粒重(g)	26.8
	品質(1-9)	2.5
	タンパク質(%)	6.77
	心白発現率(%)	48.5
	心白率(%)	58.9
	搗精(碎米率%)	3.5
		14.5

注) 1) 値は奨励品種決定調査本調査の平均値(2018, 2019年)。
移植日は4月10日、施肥は10a当たり基肥5kg、穂肥2.5kg。
2) 耐倒伏性、耐冷性、耐病性は極強～極弱。
3) 品質は1～3が1等、4～6が2等、7～8が3等、9が規格外。
4) 心白発現率は心白粒数÷全粒数×100、心白率は(5大+4中+2小)÷5n×100、大、中、小は心白の大きさ、nは心白発現粒数で目視調査、碎米率は50%搗精(2015～2016年の平均値)。



玄米の比較(左：土佐麗、右：風鳴子)



‘土佐麗’は2019年2月に奨励品種として採用され、段階的に作付けを拡大して2023年には40ha普及の予定です。なお、‘土佐麗’は、「高知とわかりやすい、また、優しさとうるわしさをもつお米、女性の間で日本酒の人気の高まる中、愛着を持てる名前にしたい。」との思いから名付けられました。